

Opinion

川勝平太静岡県知事、中嶋嶺雄会長と語る

「幼児教育と日本の将来」

浜松市で長年にわたって開催している「全国指導者研究会」。今回は、6月10日に一般公開プログラムとして、地元静岡県川勝平太知事と本会の中嶋嶺雄会長の対談が実現しました。川勝知事ご自身が子ども時代に京都の教室でヴァイオリンを習っていたと同じ、一層和やかに、また身近に対談が進みました。

松本も、浜松も

「音楽の都」

中嶋 川勝知事は比較経済史がご



専門の学者でいらつしゃいますが、同時に文化芸術に造詣が深いことでも、広く知られています。また、今

日ご自身が京都のスズキ・メソッドの教室でヴァイオリンを習っていらしたことがわかり、ご縁が深いことを改めて感じています。

川勝 ありがとうございます。まずは才能教育研究会の指導者の皆様が、20年以上、この浜松で研究会を開催していただいております。377万6千人の静岡県民の代表として、心より歓迎いたします。今、377万6千人と申しましたが、これは富士山の高さの千

倍でして、2010年5月1日現在で377万6100人という総人口でございます。

今回、この研究会のことを伺って、「いい所を選ばれたなあ」と思いました。松本が音楽の都でありますことは内外に知れ渡っておりますことですが、こちらも楽器の製造でその名が知られている所でございます。また、400年の歴史を持つ「浜松祭」では子どもたちが単純なメロディですが、ラッパを吹きます。そうやって幼児から親しむこともあつて、吹奏楽にすつと入れます。浜松の鈴木康友

海外からの演奏家を迎え、子どもたちの演奏にわいた頃の鈴木先生のご自宅
(1960年、前列左端が富川先生)



ピアノの上に、いつも置いてある写真、昭和三十五年頃、チェコトリオの皆さんが松本の鈴木先生のお宅にいらした時、鈴木先生を囲んで皆で撮ったものです。

まだ才能教育会館のない頃、外国からお客様が見えると、先生は、鈴木クラスの上手な方々に交えて、近い所に住んでいた私を呼んでくださいました。今は鈴木鎮一記念館になっている旭町の先生のお宅で、見るもの聴くもの、田舎者の私には、まるで別世界の中、世界超一流の空気を味わうことができたのでした。グランドピアノのある広い洋間、珍しい果物、そして何より素敵な音色と和やかな優しい空気、その時に聴いた佐々木衣子先生のブラームスのワルツの素敵だったこと、志田とみ子先生の透き通るような音色、今でも覚えています。何しろ昔の田舎町のこと、コーヒークの香りもメロンをいただいたのも初めてのことでした。小学校三年生からは東京に移ってしまいましたが、鈴木先生宅での思い出は、松本から見える北アルプスの山々の雄姿とともに、私の心の中に深く残っております。

二度目に松本で過ごしたのは研究生になってから。粗食の私どもを思いやりくださったか、先生はよく食事に連れて行ってくださいました。スープのいただき方もナイフとフォークの使い方も、今、恥ずかしい思いをしなくてすむのは、先生のおかげです。午後にはポケットマネーを出されてお茶菓子、ということもたびたびでした。

次の松本の思い出は、生徒や小さかった息子たちを連れて参加した夏期学校。夜、宿の広間で合奏したことやトランプをしたこと。緑の三城牧場さんじょうを駆け回ったこと。つい昨日のことのような気がいたしますのに、そんな時代からもう十年、研究生時代からはもう二十年以上になります。こんなにたくさん思い出をくださった鈴木先生に感謝するとともに、先生の心を、今度は先生の教えを受けた私たちが子どもたちに伝えなくてはと、夢と責任を感じる今日この頃です。

この連載では、鈴木先生が亡くなられる前年（1997年）に発行の「美しき音美しき心を」に寄せられた指導者たちの思い出を肩書きとともに転載しています。



市長は、「音楽のまち」をさらに「音楽の都」にしたいと、浜松国際ピアノコンクールや、3年に1回、市民オペラを開催するなど、音楽文化の創造・発信・交流に積極的に取り組んでいます。

また、ここから北に800mくらいのところにある静岡文化芸術大学（SUAC）は、国際政治学者の故高坂正堯こうさかまさたかさんが「これからは経済力や軍事力の時代ではない。文化の力で地域や国が魅力を発揮しなくてはならない」と主張され

て10年前に設立されました。ところが開校前に高坂さんが急逝されたため、初代学長には、西洋史学者の木村尚三郎先生がつかれ、そのあとを私が昨年まで預かっておりました。そうやって、この地に文化の力で「音楽の都」を創り上げようと思っていたところでございましたが、この地に全国から長年にわたってスズキ・メソードの指導者の皆様が集ってくださって、教育法などさまざまな研究活動や情報交換をされ、全国に戻っていらつしやる。そういう場に呼んでいただき、とても光栄に思います。

中嶋 一昨日も豊田耕児先生の指揮でパツハの「管弦楽組曲第3番」を演奏しましたが、そうしたご縁もありまして、今回初めて静岡文化芸術大学に連絡を取り、管楽器を学ぶ学生さんに少しお手伝いいただきました。何うところによると、弦楽器の学生さんは、ほとんどいないそうですね。

川勝 そうなんです。
中嶋 私が学長を務める国際教養大学（AIU）では、昨年からスズキ・メソードの弦楽アンサンブルを作りましたので、ここでも授業として取り入れていただくようになりましたら、ありがたいですね。

川勝 そうですね。中嶋先生の国際教養大学は新しい21世紀型大学として、大分のアジア太平洋大学とともに注目されていますが、SUACは地理的にその中間にありますので、その媒介をしたいと思っております。

ここでは音楽家、美術家を育てるといふ教育ではなく、その目利めりきというか、それがよくわかる人、黒子になって支えることができるような人たちを育てる大学なのです。ですから何かの楽器を教えているということはありませんで、今、たくさん生まれてくる芸術家を活躍させる場所をどのように作っていくか、どうプロデュース

するか、どのように紹介するか、どのように楽しむか。芸術がわかり、芸術家にとってなくてはならない人を育てていくということに力点を置いていきます。

ただ、とても質の高いウインド・アンサンブルのサークルがありませんが、弦楽器のサークルは、ありません。やがてスズキ・メソッドをどこかへ、すつと入れていくようなことができないものかと思えます。

中嶋 非常にユニークな大学ですね。A I Uと共通性があるようにも思います。A I Uでは昨年の秋から、正規にスズキ・メソッドアンサンブルというのを授業科目に入れました。アメリカでリベラル・アーツの大学の多くは、スズキ・メソッドを何らかの形で授業の一環として入れていきますし、またはスズキ・インステイテュートという研究所があります。これだけ世界に広がっているにもかかわらず、

日本では公教育にほとんど入っていませんでした。私どもの授業には留学生をはじめ、弦楽器がまったく初心者の学生もいますが、皆集中的に一生懸命に練習しています。先日、松本支部から生徒さんが秋田まで来てくれました。合同のコンサートをしました。その時には「キラキラ星変奏曲」から始まってバッハの「メヌエット第3番」などを演奏しました。今は「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」に挑戦しているところで。

川勝 今度は私も、秋田を見に行くように勧めてみたいと思います。

10年ほど前に、中嶋先生が団長をされた「アジア・オープン・フォーラム」で台湾へ一緒にさせていただきました。台南市で大実業家、許文龍氏が家に招いてくださったのですが、その時、応接間にストラディヴァリやグアルネリなど素晴らしいヴァイオリンが無造作に並べてありました。私は目をむき

ましたが、中嶋先生は何の躊躇もなく手に取ってバッハの「ブルー」を演奏されました。皆、息を呑みました。ご著書に時々挿絵があるので、絵を描かれる方だとは知っていました。この方は芸術家なのだ、それは本当にびっくりしました。

中嶋 腕前は自慢できるものではありませんが、国際交流をする時には、ヴァイオリンを学んで来たことが本当によかったと思います。外国で過ごす機会も多いのですが、すぐ仲間ができて、そしてアンサンブルができますので。

多方面から考える幼児教育、情操教育

中嶋 ところで、教育基本法に話を転じますが、川勝知事と私は安部政権の時に、一年半くらい毎週教育再生会議で一緒にさせていただきました。その前後に、教育基

本法が60年ぶりに改定されました。この改定では、家庭教育をまず最初に位置づけました。これは家庭教育が教育の原点だということですから。まさに才能教育研究会でも家庭教育を重視していますけれど、その延長線上にあるのが幼児教育です。

教育基本法の第十一条、第十二条の「地方自治体なり国がサポートする」という部分は知事としてご苦労され、貢献されているところですね。

川勝 おっしゃる通りです。それで私は知事になりました時に、県立美術館は大学生まで無料としました。そして東海道を芸術街道に、

教育基本法(幼児期の教育)

第十一条 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることにかんがみ、国及び地方公共団体は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備その他適当な方法によって、その振興に努めなければならない。

そこから延びる街道をも含めて「ふじのくに」を文化芸術の回廊にいたしますと申しました。文化芸術は本当に大切で、そういうものにも子どもの時から触れさせなければなりません。1に勉強、2に勉強、3に勉強といひまして、1の勉強は学校の勉強、2の勉強は現場でする日々の勉強。もう一つ、3の勉強は、生き方の勉強。より良く生きるために芸術に接することが大切だと。親がそういう気持ちを持たないと、子どもが情操教育を受けることができません。ですから私は幼児教育も含めた情操教育というものを本県全体で高めようと実践しています。

私自身も、京都の三条河原町の十字屋という楽器屋さんの2階でヴァイオリンを習いました。両親は十分音楽に理解があったとは思えませんが、情操教育の大切さということを知っていたようで、嫌がる子どもを週一回連れて行って、

「キラキラ星」を毎日弾かせました。その結果、ある時音楽の良さに気づき、それが生きるための糧、力であると思うようになりました。ですから幼児の時に情操教育を施してくれた母への感謝と同時に、その重要性は十分に痛感しているつもりでございます。

中嶋 川勝知事のような方が各県に出てくれたら本当にいいですね。川勝 日本にはほとんどありませんが、ユーラシア大陸など世界のすべての都市は人工的な壁に囲まれていると言われます。では、そうした中で最も美しい囲いは何かと言うと、長野県、山梨県が持っている山々だと思えますね。本当に美しい日本の中庭です。情操教育は、そういう美しい景観の中で育つということも大切だと思うのです。城壁ですと、だんだんに朽ちていきますが、山は四季で姿が違います。一日でも表情が違います。それが人の心を涵養かんようします。

教育基本法（社会教育）

第十二条 個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない。

2 国及び地方公共団体は、図書館、博物館、公民館その他の社会教育施設の設置、学校の施設の利用、学習の機会及び情報の提供その他の適当な方法によって社会教育の振興に努めなければならない。

鈴木鎮一先生の才能教育が、戦後すぐ松本で始まった。これは、とてもいい場所を得たと思いますね。松本に行くと、そこにアルプスを見ることができると感じますね。少年は絵を描いたり、山に登ったり、音楽を奏でたりする。その心をどのようにして美しく育てるかは、これからの将来、本当に大切なことになるでしょう。誰もが持っている「美しい」と感じる感性は普遍的です。自然が多様であるように感性も多様で、それがいいことなのですが、私はその美しさを

知性や体力と同じくらい大事にする日本の将来を考えております。

この地域も長野県に劣らず美しく、浜名湖は、うなぎだけでなく東海道のオアシスですし、南アルプスの山々は声なき声で「連山のような固い絆を大事にしよう」と語りかけています。富士山は「富士士のように高い志を持って」と言っていますし、日本一深い湾である駿河湾は「深い思いやりを、思いを抱け」と言っていると私は思っています。私はそのように自然景観も日本の情操教育について語る上で重要だと思っております。

中嶋 先ほどの教育基本法に返りますと、国や地方自治体が幼児教育を支援しないとイケないということは、基本法に書かれておりますので、本会の皆さんも今後いろいろな地方や地域で催しをしたり、活動を拡大したりする時に、ぜひ引用してください。日本の底力は幼児教育にあるということ強調

していただければと思います。

これからは幅広いアプローチを

中嶋 もう一つ、基本法第十二条の中に社会教育が出ています。スズキ・メソッドも、もう少し社会教育、たとえば少子化、高齢化という問題にも乗り出すべきではないかと私は考えています。高齢者の方がチェロで「白鳥」を弾いてみたい、ピアノで「エリーゼのために」を弾きたいというような要望も受け入れていってはどうかという事です。それには指導方法も、一番柔軟で伸びやすい幼児を教育するのは違った手法やフォローが必要ですね。

そして第十二条の2、「国及び地方公共団体が社会教育の振興に努めなければならない」ということを、おそらくSUACも目指しているのだと思いますが、いかがですか？



川勝平太 Heita Kawakatsu

1948年京都市生まれ。72年早稲田大学第一政治経済学部経済学科卒業。75年同大学大学院経済学研究科修士課程修了。85年オックスフォード大学博士号取得。90年早稲田大学政治経済学部教授。98年国際日本文化研究センター教授。07年学校法人静岡文化芸術大学学長。09年7月 静岡県知事(1期目)

川勝知事の人となりや学問的業績をご紹介する一端として、知事の多くの著作の中から中嶋会長が推薦された3冊

文明の海洋史観 (中央公論社 1,995円) / 海洋国家日本としての国際政治地図、国際政治の広がりや古代から現代に至るまで文明的に解明した。読者論壇賞を受賞

富国育徳論 (中央公論新社 620円) / 「富国育徳」の概念を広く提唱している。教育、有徳という才能教育とも深い結びつきをもつ内容。アジア・太平洋賞特別賞を受賞

文化力 (ウェッジ 2,520円) / 「日本の底力」の副題が付き、氏が単なる国際関係史の学者ではないことがわかる

川勝 これは、ようやく国も気がついてくれたということですからね。そういう国からの法律的規定がなくても、やらなくてはいけないことですね。鈴木先生も国から言われたからでなく、まずご自身で始められて、その志を引き継がれた方々が「世界のスズキ」にされました。人間を立派にするためにヴァイオリンを使われた、ここが民の力と言いますか、上から与えられたのではなく、自ら組織化してきた実績があります。

それが、ここまで大きくなったわけですから、今度は制度的に取り入れてもらうということを実行に考える時かもしれませんね。中嶋 私もおつしやることにまったく賛成で、スズキも昔の文部省が旗を振ってやろうとしたら、こんな風にはならなかったでしょう。今の世界での広がりもなかったでしょう。ですから、まさにスズキ・メソッドは民間の教育運動だったのです。ようやく国が幼児教育の重要性に気がついた今、こ



れからは民間運動だけでなく、公教育の中に少しでもスズキを入れていくことが必要ではないか、それがこれからの課題だと思っています。その意味でも今後ともご支援いただけるとありがたいですね。今日はいろいろなお話をお聞かせいただき、本当にありがとうございます。

教室めぐり

27 京都府

京都支部
新井 覚クラス
・京都市上京区河原町通丸太町下る伊勢屋町 46
マツヨビル5F
・京都市左京区下鴨東岸本町 24
tel.075-781-7998



名ヴァイオリニストのフェリックス・アーヨからのメッセージが掲示されていた

友だちのような触れ合いから、音を創りだす

今回は関西地区の二つの教室を訪ねた。まず最初に紹介するのは、縁もゆかりもなかった京都に赴任して58年。ひたすら鈴木先生の指導を思い浮かべながら、日々のレッスンを耳を育て、才能教育の中でも草分けとなる弦楽団を結成した新井覚先生の教室。穏やかな中に音楽への強いこだわりのある様子が興味深かった。

数十万の群衆で賑わう京都祇園祭の宵山の日に、新井覚先生から伺ったお話は、松本音楽院草創期の数多くの逸話に始まり、趣味の鉄道横型の醍醐味、弦楽合奏へのこだわり、そして限らない音への追求……。途中、ゲリラ豪雨の雷も聞こえる中、数々のエピソードに時間も忘れるほどだった。

小学2年生の頃、小児結核を患い、2年間の療養中に木琴に出会った新井少年は、9歳の時、銀行員の父の転勤で松本に引越す。転入した長野県師範学校附属国民学校（現在の信州大学教育学部附属小学校）で手に触れたのがヴァイオリンだった。音楽の先生と、見よう見まねで指導曲集「ホームマン」で独学。「1年もしたら、先生よりうまく

なっていた」というから、木琴が役立ったのだろう。

戦後になって、松本音楽院が創設され、「生徒募集」の新聞広告を見るやいなや音楽院に駆けつけた。その時、14歳。成年部の鈴木鎮一クラスに入り、「キラキラ星変奏曲」から始めた。「弓が速く動かない、弓がきちんと止まらないことに愕然とした」という。同時に、「ホームマン」流と、まったく逆転の発想で教える鈴木先生の教え方に、大きな驚きと感動を持って接した。

しかし、指導曲集第3巻の頃には鈴木先生が冒アトニーで危篤状態に。代教を務めた山本恵子先生は、東京の帝国音楽学校で鈴木先生の指導を受けた最後の教え子で、若きヴァイオリンの名手だったが、

当時、浅間温泉に発生した集団チフスで惜しくも病死。その後は、新井少年の1歳下で中学生の豊田耕兒少年にもレッスンを受けた。

1年後、奇跡的に復帰した鈴木先生は、才能教育運動拡大のために、精力的に全国行脚を重ねていた。その一つ、京都相愛幼稚園の平澤恭子園長が鈴木先生の理念に賛同し、京都支部を開設。白羽の矢があたったのが、松本で研鑽を積んでいた20歳の新井先生だった。

「1952年当時、松本から名古屋までトンネルが53ありました。蒸気機関車ですから、そのつど窓を閉めないといつ黒」という時代。名古屋から京都までは快速電車の「比叡」が運ぶ。「あれは153系でね」と鉄道マニアの横顔が覗く。



新井覚クラス

Suzuki Method

才能教育 No.173 秋 2010

「第53回グランドコンサート」お知らせ
川勝平太静岡県知事、中嶋嶺雄会長と語る「幼児教育と日本の将来」

特集

われら、夏期学校サポート隊
2010
Summer School



KAWAI

もっと伝えたい、感動を。

スタンダードの誇り。

「スタンダード」の第二の意味は、「普通」でも「一般的」でもなく、「基準」「模範」「手本」です。

RXシリーズは、カワイのグランドピアノ・ラインナップの中核に位置し、ピキナーからプロのピアニストまで、

幅広い音楽ニーズに正確に応え、

数多くのユーザーに支持され愛用されているスタンダードモデル。

だからこそカワイは、RXシリーズがグランドピアノの

「基準」「模範」「手本」であらんことをひたすら追求し続け、

改良、改善の手を休めずして続けることはありません。

RXシリーズ。

スタンダードの誇りと責任から生まれました。

RX

さらに高められた、スタンダードピアノとしての完成度。

剛性や環境変化に対する耐久性を高めたリインフォースト・ハンマーシャックを採用。

複合素材により回動部の剛性が向上、ハンマーのぶれが減少し、より安定した演奏を実現。

より丹念な音のつくり込みを実施し、高品質を安定的に確保。

“Shigeru Kawai”シリーズの生産で培った整調・整音ノウハウが息づいています。

プレミアム感あふれる外観仕上げを随所に採用。

真鍮製の突上床受けや金色の響板モール、黒色のフェルトを新たに採用しました。



RX-7 3,307,500円 | RX-6 2,782,500円 | RX-5 2,362,500円 | RX-4 2,047,500円 | RX-2 1,680,000円 | RX-1 1,501,500円

※いずれも標準価格(税込)・椅子別売 ※価格には消費税(5%)を含んでいます。 ※納入遅延料は別途申し受けます。